



# フェルメール 真珠の耳飾りの少女展

17世紀オランダ絵画の名品、奇跡の再来日

フェルメールの傑作《真珠の耳飾りの少女》に加えて  
フェルメール《ディアナとニンフたち》の来日も決定！

フェルメール 《真珠の耳飾りの少女》展

17世紀オランダ絵画の名品、奇跡の再来日

2026年8月21日（金）～ 2026年9月27日（日）

大阪中之島美術館

フェルメール《真珠の耳飾りの少女》を展示する本展（大阪中之島美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ主催）の名称が「フェルメール《真珠の耳飾りの少女》展 17世紀オランダ絵画の名品、奇跡の再来日」に決まりました。さらに、フェルメールの《ディアナとニンフたち》の出品も決定。マウリッツハイス美術館が所蔵するフェルメール作品3点のうち、2点が本展のために来日する、またとない機会となります。

本展ではこのほか、17世紀オランダ絵画の重要作品であるヤン・ステーン《老いが歌えば若きが笛吹く》、パウルス・ポッテル《水に映る牛》、マリア・ファン・オーステルウェイク《装飾的な壺の花》なども合わせて展示します。展覧会は2026年8月21日（金）～9月27日（日）の会期で大阪中之島美術館のみでの開催となります。他地域への巡回はありません。

## 開催にあたって

本展は、17世紀オランダ絵画を代表する画家ヨハネス・フェルメール（1632-1675）の傑作《真珠の耳飾りの少女》を中心とし、17世紀オランダ絵画を紹介する展覧会です。《真珠の耳飾りの少女》は、約120万人が来場した2012年の「マウリッツハイス美術館展」（朝日新聞社など主催）以来、実に14年ぶりの来日となります。

この作品は、オランダ・ハーグのマウリッツハイス美術館が所蔵する世界的名画で、原則として館外への貸し出しはされていません。今回の来日はマウリッツハイス美術館の改修工事による臨時休館に伴い実現することとなりました。同館のマルティネ・ゴッセリンク館長は、「当館には毎年、フェルメールの《真珠の耳飾りの少女》を愛する何千人もの日本人観光客が訪れます。当館にとって、この『少女』の旅は、日本の皆さまに彼女を送り届けられる、おそらく最後となるであろう特別な機会です。」と話します。



ヨハネス・フェルメール 《真珠の耳飾りの少女》  
1665年頃 44.5×39.0 cm 油彩、カンヴァス  
マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague



ヨハネス・フェルメール 《ディアナとニンフたち》  
1653-1654年頃 97.8×104.6 cm 油彩、カンヴァス  
マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague



## 展示作品について



ヨハネス・フェルメール 《真珠の耳飾りの少女》 1665年頃 44.5×39.0 cm 油彩、カンヴァス  
マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague

少女がこちらを振り向いているだけなのに、きらりと光る瞳や半開きになった濡れた唇、大きな真珠のイヤリングが見る者をとらえて離さない。「世界でもっとも有名な絵のひとつ」とされ、世界中の人々を魅了してきた。幻想的な東洋風のターバンと、当時の衣装をまとったこの少女の像は特定の人物の肖像画ではない、トロニーというジャンルに属する。モデルは画家の娘だという説もあったが、謎である。「IVMeer」というサインがあるが、制作年などは不詳。色彩は青と黄色のみにほぼ限定されているが、青はラピスラズリから作られたウルトラマリンという非常に高価な絵具が用いられている。以前は「青いターバンの少女」とも呼ばれてきたが、2003年の映画「真珠の耳飾りの少女」のヒットにより、このタイトルでよばれるようになった。



ヨハネス・フェルメール 《ディアナとニンフたち》1653-1654年頃 97.8×104.6 cm 油彩、カンヴァス  
マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague

寡作であったフェルメールのもっとも初期の作品で、神話に題材をとった唯一の作品である。ローマ神話の月と狩猟の女神ディアナが、侍女たちのニンフ（森の精）に足を洗わせている。ティツィアーノらヴェネツィア派の画家が得意としたテーマであり、ヴェネツィア派のような華やかな色彩が見られるが、人物たちは影に沈んでいる。1876年にマウリッツハイス美術館が入手したが、そのときは別の画家ニコラース・マースの偽の署名が入っており、マースの作品と思われていた。19世紀末の修復で、「JVMeer」という署名が見つかり、当時ほとんど知られていなかったフェルメールの作品とされた。

## ヨハネス・フェルメール（1632-1675）

17世紀オランダを代表する画家の一人であり、静謐な日常生活の情景を精緻に描いた作品で知られる。制作に関しては一枚の絵に長い時間を費やしたため、完成させた作品は多くなく、現存する作品はわずか30数点しか知られていない。画家になった当初は聖書や古典神話に基づく歴史画を描いていたが、24歳頃から室内風俗画へと転向した。マウリッツハイス美術館所蔵の《真珠の耳飾りの少女》は、フェルメール作品の中でも最も著名で世界的に広く愛される作品の一つである。



ヤン・ステーン《老いが歌えば若きが笛吹く》

1663-1665年頃 83.8×91.9cm 油彩、カンヴァス

オランダの風俗画を代表する画家ヤン・ステーンの代表作。この画家に典型的なにぎやかな室内の情景を描いている。「年寄りが歌えば、若者が笛を吹く」という、17世紀オランダで広く知られたことわざを描いたもので、子どもというものは、悪い行為を含めて大人のすることをなんでも真似をするので、大人はつねに正しい手本を示さなければならないという警告である。ステーンは自分や家族をモデルにすることが多かったが、ここでは絵の中央で自らパイプを吸う姿で登場し、まさに悪い手本を示している。ステーンはこのことわざを主題にした作品を数多く描いており、そのうち2点がマウリッツハイム美術館のコレクションに収められている。



パウルス・ポッテル《水に映る牛》1648年 43.4×61.3cm 油彩、板

パウルス・ポッテルは牛の絵で知られるオランダの画家。画家であった父に学び、早熟の才能を示した。結核によりわずか28歳で天逝するまでに、百点近い作品を残した。マウリッツハイム美術館には、ポッテルの代表作《若い牡牛》という大作がある。19世紀まではフェルメールよりも有名な画家であった。この絵は、輝かしい夏の日の情景を描いたもの。人々は水辺で楽しんでおり、牛たちはそれを見守り、木陰や池で涼を求めている。ポッテルは水面に映る反射を巧みに描き、そのためこの絵は「映る牛」という愛称で親しまれてきた。ポッテルは動物たちを忠実に細部まで描いているが、彼はスケッチ帖を持ち歩いて動物を個別にスケッチし、後でそれらを統合して制作した。



マリア・ファン・オーステルウェイク《装飾的な壺の花》  
1670-1675年頃? 62.0×47.5cm 油彩、カンヴァス

17世紀オランダでは何人もの女性画家によって静物画が描かれた。それを代表する女性画家マリア・ファン・オーステルウェイクは、花の絵で国際的な名声を博し、神聖ローマ皇帝、フランス国王、イギリス国王などにも求められた。彼女は静物画家として有名なヤン・ダーフィッツゾーン・デ・ヘームの弟子とされ、敬虔なプロテスタントであった。この作品には強い象徴的意味が込められている。ひまわりは神の存在を象徴し、赤いバラは聖母や愛を表す。花瓶にはキリストを象徴する葡萄や羊と戯れるプットー（童子）が見え、花の入った杯の蓋の上のヴィーナスは欲望を表す。マウリッツハイス美術館は1882年にこの作品を収蔵した。

## マウリッツハイス美術館

オランダ・ハーグにあるマウリッツハイス美術館は、主に17世紀のオランダ・フランドル絵画の優れたコレクションで知られる。館の建物はオランダ古典様式建築の傑作と評され、1644年にヨハン・マウリッツ伯爵（1604-1679）の私邸として建設された。その後、1822年に王立美術館として開館した。美術館の基礎となるコレクションは、オラニエ公ウィレム5世の絵画収集品であり、彼の息子であるオランダ初代国王ウィレム1世によって美術館が創設された。所蔵作品には、フェルメールの《真珠の耳飾りの少女》、《ディアナとニンフたち》、《デルフトの眺望》の3作品のほか、レンブラントの《ニコラース・テュルプ博士の解剖学講義》をはじめ、ルーベンス、フランス・ハルス、ヤン・ステーンなど著名な画家の傑作が含まれている。



マウリッツハイス美術館© Mauritshuis, The Hague



## 開催概要

展覧会タイトル：フェルメール《真珠の耳飾りの少女》展 **17世紀オランダ絵画の名品、奇跡の再来日**

**Vermeer's Girl with a Pearl Earring: Dutch masterpieces of the 17th century**

会期：2026年8月21日（金）～ 2026年9月27日（日）

会場：大阪中之島美術館 5階展示室 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-3-1

主催：大阪中之島美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ

後援：オランダ王国大使館

### 【展覧会公式サイト】

<https://vermeer2026.exhibit.jp/>

### 【展覧会公式X】

@Vermeer2026

### 【展覧会公式Instagram】

@vermeerosaka2026

問い合わせ先：06-4301-7285（大阪市総合コールセンター）受付時間 8:00-21:00（年中無休）

※チケットは6月発売、詳細は5月下旬に発表いたします。

※記載内容に変更が生じる場合があります。最新の情報は展覧会公式サイトでご確認ください。

報道関係者

お問い合わせ先

「フェルメール《真珠の耳飾りの少女》展」広報事務局（TMオフィス内） 担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：[vermeer2026@tm-office.co.jp](mailto:vermeer2026@tm-office.co.jp)



[広報用画像一覧]

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。下記申し込みフォームよりお申し込みください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://forms.gle/xiNE3rPboXyRsKrF8>

\*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

■ 広報画像をご使用の際は、別紙に記載の「画像使用全般に関する注意」を必ずご確認ください。

(1) 	(2) 	(3) 
(4) 	(5) 	(6) 

[広報用画像クレジット一覧]

No.	クレジット・作品名・年代・キャプション
1	ヨハネス・フェルメール 《真珠の耳飾りの少女》 1665年頃 44.5×39.0 cm 油彩、カンヴァス マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague
2	ヨハネス・フェルメール 《ディアナとニンフたち》 1653-1654年頃 97.8×104.6 cm 油彩、カンヴァス マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague
3	ヤン・ステーン 《老いが歌えば若きが笛吹く》 1663-1665年頃 83.8×91.9cm 油彩、カンヴァス マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague
4	パウルス・ポッテル 《水に映る牛》 1648年 43.4×61.3cm 油彩、板 マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague
5	マリア・ファン・オーステルウェイク 《装飾的な壺の花》 1670-1675年頃? 62.0×47.5cm 油彩、カンヴァス マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague
6	マウリッツハイス美術館 © Mauritshuis, The Hague



[広報用画像申込書]

[画像使用全般に関する注意]

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的とした報道に限らせていただきます。ご使用可能期間は本展会期終了までです。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、所定の作品データ、所定のクレジットを必ずご掲載ください。
- ・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。本展会期中であっても再放送や転載をされる場合は広報事務局にご連絡ください。
- ・展覧会基本情報と広報画像の確認のため、校正を本展広報事務局にお送りくださるようお願いいたします。
- ・インターネットでご紹介いただく場合はコピーガードをかけてご使用のうえ掲載URLをお知らせください。
- ・掲載誌・紙（ご紹介号）、同録DVDほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://forms.gle/xiNE3rPboXyRsKrF8>

\*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

ご希望の広報画像 / 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	
貴社名 /	
お名前 /	
部署 /	ご所属 /
貴媒体名 /	媒体種 /
サイトURL /	
掲載号・露出予定日 /	月号 ( 月 日号) / 月 日発売予定 <input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
TEL /	FAX /
E-MAIL /	
備考 /	

報道関係者  
お問い合わせ先

「フェルメール《真珠の耳飾りの少女》展」広報事務局（TMオフィス内） 担当：馬場・永井・西坂  
MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）  
TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：[vermeer2026@tm-office.co.jp](mailto:vermeer2026@tm-office.co.jp)